



精度が高く、自由自在に吹ける

ヤマハ

YSL-825 & 栗田晃 (読売日本交響楽団首席トロンボーン奏者)

YSL-882OR & 阿部竜之介 (大阪交響楽団首席トロンボーン奏者)

YSL-882、882OR & 鳥塚心輔 (東京交響楽団首席トロンボーン奏者)

ヤマハのXenoシリーズのトロンボーンを愛用する、東京と大阪、3つのプロオーケストラの首席奏者に集まっていたとき、それぞれの愛器について語っていた。



個人練習のときには特に身体の状態を意識

——どのように楽器を始めましたか。
鳥塚 トロンボーンを始めたのは中学のビッグバンドでした。高校で吹奏楽部はすぐやめてしまい、それからレッスンに通って音大を目指しました。

栗田 私は中学・高校とつづり吹奏楽に浸かっていました。高校では吹奏楽コンクールの全国大会で普門館に行きました。

阿部 私は中学・高校と吹奏楽部でユーフォニアムを吹いていました。でもトロンボーンもずっと好きで、高校卒業後は日本の音大には行かずにフランスに留学したのですが、トロンボーンでオーケストラに入りたいと思い、始めました。当時の先生に「ユーフォニアムの2倍、トロンボーンを練習しなさい」と言われて必死に練習しました。かなり苦労しましたが、「こう吹けばユーフォニアムの音になる、こう吹けばトロンボーンの音がする」ということがわかって、それが自分の武器になったのかなと思っています。でも結局ユーフォニアムもやめられず、今でも両方吹いています。

みなさんが楽器を吹くときに重視していることはどんなことでしょうか。

鳥塚 この頃、楽器を吹いているときの身体の状態を特に意識するようになってきました。たとえば自宅で基礎練習するときに、ヘッドフォ

ンで耳をふさいであえて音を聴かず、身体がきちんと使えているかどうか集中します。防音室が狭いので、そこに合わせて音色を作ってしまうないように、ホールで吹いていることをイメージして体の使い方を確かめているんです。

栗田晃 (くわた・あきら)

武蔵野音楽大学卒業。在学中新日本フィルハーモニー交響楽団に入団。現在、読売日本交響楽団首席奏者の他、読響トロンボーンカルテット、トロンボーン・カルテットジバング、カスタム・プラス・クインテット、アンサンブル・タープ、トウキョウブラッスシンフォニーのメンバー。各アンサンブルにてCDをリリース。武蔵野音楽大学、桐朋学園大学の非常勤講師。



ヤマハ YSL-825 ¥693,000

B♭管とF管で息が同じ方向に流れるレイアウトが大きな特長。ローターリーバルブはケーシングに真鍮、軸受けにリン青銅を組み合わせた構造。銀製のリードパイプとゴールドブラス製のスライドを採用し、支柱の位置や形状なども工夫されている。



阿部竜之介(あべ・りゅうのすけ)

13歳のときにユーフォニアムを始め、18歳のときにトロンボーンも始める。高校卒業後に渡仏し、フランス国立ベルビニャン音楽院へ入学。卒業後ドイツのライブツィヒ放送吹奏楽団、ハンガリーのサボルチ交響楽団の奏者として活動。現在、大阪交響楽団首席トロンボーン奏者。ESA音楽学院専門学校ユーフォニアム、トロンボーン講師。



ヤマハ YSL-8820 ¥473,000

オープンラップ採用による抜けのよい吹奏感を持ち、安定した音をホールに響かせる楽器。デタッチャブルベルを採用するYSL-8820Dもラインアップされる(国内本数限定)。



阿部 身体のごときは、僕も以前から気にしています。30歳になったときに「これからの10年間で自分の40代を作る」と考えて、腕立て伏せやストレッチを始めました。僕も自宅では主に練習用ミュートを付けて吹いているのですが、アタックの細かな差を確認したり、どの音域、どのポジションで吹いても同じ息の圧がかかるように気にしてやっています。

葉田 練習用ミュートとして、僕はヤマハのサイレントプラスのピックアップミュートを使っています。コロナ禍のときにいろいろなものを買って試したり、ペットボトルを利用して自分



くせがなく、自分の声のように自在にコントロールできる楽器

で作ってみたいとした結果、吹奏感が一番自然なのがサイレントプラスでした。

楽器に対しては、どんな要素を重視しますか。
葉田 やはり反応のよい楽器ですね。建てつけが悪い楽器だと、ダイレクトに反応しなかったりする場合もありますが、ヤマハの楽器は丁寧に作られているので安心です。それに加えて音色の幅や音量のキャパシティがあれば、よりよいと思います。

鳥塚 僕の場合、思ったままに癖なく吹ける楽器が一番です。楽器が勝手によい音を出してくれるようなのも好きではありません。

阿部 やはり、自分の声のように自由自在に吹ける楽器ですね。自分以上でも以下でもなく、自然に話すように音を出してくれる楽器。その声がよくないなら、自分が練習すればいいだけなので。

今お使いの楽器はいかがですか。
阿部 メインはヤマハのYSL-8820ORですが、まさに今お話ししたように自分の思うとおりに出してくれる楽器で、あとは音楽の表現のことだけを考えればいいので、幸せです(笑)。

もともと約15年前に、東京の大きな楽器店を回っているいろいろなモデルを試奏し、ヤマハのYSL-8820G(8820のゴールドプラス)を選びました。結局それがもっとも音楽表現がしやすかったのです。8820ORに替えたのはオーケストラに入ってからより幅広く吹けて他のさまざまな楽器に合わせやすいという理由です。

葉田 今使っているのは2年ほど前に発売されたヤマハのYSL-8825という、僕自身が開発に関わった楽器です。自分の声のように自在にコントロールできる楽器を目指して作った楽器で、完全に満足しています。以前、ヤマハ

独自の「Vバルブ」を使ったYSL-882Vという楽器の開発にもかわかりましたが、B管とF管で息が同じ方向に流れるというコンセプトを受け継いでいます。

鳥塚さんは?

鳥塚 YSL-882がメインです。とにかく楽器が好きで、20年くらいの楽器を持っていますが、そのなかでもヤマハを選ぶ理由は、まずくせがないところ。魅力的な音が出るうえに、自分の意思を伝えやすいんです。もう1本のYSL-8820ORのほうは、ニューヨーク・フィルの2nd吹きであるデイヴィッド・フィンレイソン氏を追いかけるための楽器です。彼はスライドの先にカメラをつけた動画でも話題になりましたが、何よりその音が好きで、オーケストラでは1stと同等以上に吹けるすごい奏者です。彼と同じような音が出したいと思い、同じ楽器を同じ仕様にしていきます。

阿部 僕は、ヤマハの楽器の魅力のひとつとし

鳥塚心輔(とりづか・しんすけ)

13歳よりジャズオーケストラにてトロンボーンを始める。東京藝術大学卒業。東京藝術大学大学院修士課程修了と同時に東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団に入団。2006年に東京交響楽団に首席奏者として移籍。東京アトラクティブプラス、早川隆章「東京SLIDING倶楽部」、SLIDE JAPANメンバー。



ヤマハ YSL-882 ¥473,000

リードパイプ交換式のナロースライドを採用。適度な抵抗感を持ち、トロンボーンらしい音色を追求した。



ヤマハ YSL-882OR ¥528,000

リードパイプ交換式のワイドピッチスライド、バランスドレスポンスローターなどを採用し、幅広い音の表現が可能。



て、長く使ってもへたらないところが挙げられると思います。過去に使っていた楽器では、3年くらいで鳴らなくなってしまうような経験もしましたので。

葉田 特にスライドは非常に高い精度が要求される部分ですが、ヤマハは世界一だと思っています。スライドが少しでもスムーズに動かないと、演奏意欲がなくなってしまうから。しかも個体差が少ないので、何本もの楽器を吹き比べられるような環境でなくてもクオリティの高い楽器が手に入るというのは、本当にありがたいことです。

※価格はすべて税込で、2024年1月時点のものとなります。

